

第1回専門委員会の主な発言要旨

(実施場所)

- 学校内学童では、日々教室が変わる場合があり、子供の環境がものすごく変わる。特に発達障害の子供は大変困る状況がある。
- タイムシェアを取り入れている学童クラブでは、子供が安定した生活ができない。
- 質の高いサービスという面で、広い環境で育成ができると良い。1.65㎡よりも広いスペースを確保している施設へのインセンティブがあると良い。
- その日ごとの子供のニーズに合わせて、子供が学童クラブでの過ごし方は選択できる条件の整備が必要である。

(職員配置)

- 常勤職員がしっかりと子供を支援するということが基本である。
- 職員が継続的に子供たちに対応できるようにするためには、常勤職員の配置が重要である。常勤職員が継続的に勤務できれば、子供たちも同じ職員に安定的に長く対応してもらえるため、子供の最善の利益につながる。
- 子供を受け入れるためには準備が必要であり、そのような時間を勤務の中で確保する必要がある。そのためには常勤配置が必要である。
- 非常勤が多いことで先生が毎日異なり、子供は安定した生活ができない。

(児童の規模)

- 大規模化すると、子供たちが、自分の過ごし方を見いだせなくなる。また、指導員との関係でいえば、子供たちから色々な要求があるが応えきれなくなる。一人一人を把握するため、40名以下が一つのラインである。
- 子供が安定した生活を送るためには、大規模化は避けるべきである。
- 支援の単位が形だけになっているところもある。書類上支援の単位として形を整っているが、実際は多い人数、多い職員が全体的な育成を行っているところがある。実際に支援の単位ごとにしっかりと運営されることが重要である。
- 支援の単位の規模は、運営指針や設備運営基準に則った概ね40人が妥当である。

第1回専門委員会の主な発言要旨

（活動内容）

- 生活の場である学童クラブを考えたときに、「自主性、社会性及び創造性を育む活動内容をどう考えるか」という課題設定をすると、こういうプログラムをすれば、こういう力が身につく、だからプログラムに補助をつけましょう、という形になってしまう。学童クラブの性質を考えたときに、この課題設定は適切ではない。
- 職員の配置や実施場所等の適切な環境条件が基盤にあって、その上に子供の自主性、社会性及び創造性が育まれる。
- 学童で過ごす時間は非常に長いので、何かプログラムを行うという選択肢があってもよいのではないか。学童クラブの実態として、何もさせてくれないというところもあるので、子供がやりたいことを選べるような仕組みがあってもよいのではないか。
- 子供発信のことが日常の中になる。その子供の発信を現場の指導員がしっかりと受け止めて、それをどう実現していくのかを一緒に考えて一緒に作り出すということが重要である。
- 子供が選べる、選択できるということが大変重要な環境条件である。多様な選択をできる環境を整備することが、子供の自主性や主体性を育むことにつながっていく。
- 子供の主体性や意見表明権が謳われる中、生活の場の中で、子供の意見を聞き取り、それを実現させていくサポート役に回ることで、自主性や社会性、創造性、またコミュニケーション力が育まれる。
- 適切に子供たちの自主性、社会性、創造性を育むサポートができる力量を備えた職員を養成、配置できるかということも課題として重要である。

（障害児）

- 発達障害の加配の考え方が区市町村によって異なるため、揃えていただけると助かる。
- 障害のある子供も含め同じ空間で過ごすことができることが非常に重要である。
- 障害のある子供の受け入れが増えている実情を踏まえ、職員配置はもちろんのこと、スペースや施設設備を確保することが課題である。

（保護者向けサービス）

- 長期休業中の配食サービスの利用率は12%程度であったが、利用者からは好評であり、保護者がサービスを選択できる環境が重要である。
- 保護者と子供のニーズが対立する場合は、子供の意見・意向を優先し、そこに保護者のニーズをどのように組み込むかという方向で検討する必要がある。

第1回専門委員会の主な発言要旨

（職員の確保・定着・育成）

- 保育士や教員とは異なり、放課後児童支援員は認知度が低い。
- 職員の定着を期待するためには、職員の処遇は欠かせない。
- 支援員に求められるものが増えている。子供の対応だけでなく、保護者への対応も多々ある。このような点も処遇改善の中に入れてあげれば、定着、継続、育成につながる。
- 子供たちの対応をする時間の前後の準備の時間も、勤務として捉えることが支援の一つとなる。
- 例えば、午前中に学童クラブにおいて不登校児を受け入れることで、常勤職員を増やせるのではないか。不登校児を預かりするためには、当然専門性も必要となる。
- 子供の声をちゃんと聞くためには、一定の経験が必要である。日々の振り返りを行い、その振り返りを次の保育につなげていく必要がある。そのためには、職員の定着、常勤の配置が大事である。
- 支援員は、子供や保護者との関係性を斜めの関係と表現される。斜めの関係を保持していくためには、一定の専門性が必要である。これは、職員の研修等で養成する必要がある。また、その経験を積み重ねていくためには、継続して働き続けられることが必須であり、処遇改善、研修の充実、常勤職員の雇用が必要である。
- 国も、処遇改善事業を実施しているが、区市町村の採択率が非常に低い。各基礎自治体にそれを採択してもらうのが非常に重要である。

（民間参入）

- 民間を促進するのは良いが、価格競争を引き起こすのはよくない。区市町村の公募案件では、金額のみが提示され、常勤職員の配置も必要としないケースがあり、職員の継続性の観点など様々な点から問題がある。誰も得をしないスキームのため、民間促進の観点からは気をつけるべきである。
- 社会福祉法人や株式会社など、法人種別による差別化が起きないように制度設計をお願いしたい。